

令和4年度学校自己評価システムシート（県立伊奈学園総合高等学校） s26

目指す学校像	生徒一人一人の個性と資質・能力を伸ばし、切磋琢磨する中で高い志を持って希望をかなえる生徒を育成する学校
--------	---

重点目標	1 主体的に将来を考えさせる進路指導と、学習意欲を高めるよう工夫された授業を展開する。 2 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を推進する。 3 安心して通える安全な学校の中で、学習と部活動等の両立の実践を通じた充実した学校生活を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	10名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>○ 進学校として生徒の希望進路実現の割合を増やしていくためには、3年間を見通した進路指導計画をより明確にするとともに、大学入試を見据えた授業や進学講習の充実と計画的な実施が必要である。また、キャリア教育の観点から、進学後の自身の生き方を主体的に創造できる将来設計力を身に付けさせることが必要である。</p> <p>○ 大学入試改革、新学習指導要領への対応のために、より一層の授業改善・指導力向上に取り組み、生徒の学力向上を図る必要がある。</p>	<p>○ 生徒の進路実現のための組織的な取組を実施する。</p> <p>○ 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。</p>	<p>① 各教員は、生徒の進路実現のための方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 進路指導計画に基づいて、担任や年次から個々の進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>③ 難関大学入試にも対応した各種進学講習体制を充実させる。</p> <p>④ 新大学入試制度に関する研修会等を通じた最新情報の共有、教員の意識と理解を深め、指導に生かす。</p> <p>⑤ 各教員は、授業改善及び生徒の意欲喚起の方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>⑥ ICTを積極的に活用した授業実践とコロナ禍においても学びを止めないよう工夫した授業実践。</p> <p>⑦ 科目選択ハンドブックを用いて連携した指導を行う。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。</p> <p>② アンケート等で進路指導に関する満足度が向上したか。</p> <p>③ 講習参加者の状況は、前年度より向上したか。</p> <p>④②③ 生徒の進路希望が90%以上実現できたか。</p> <p>④ 研修会等で適時に正確な情報提供が図れたか。</p> <p>⑤ 各教員の自己評価が高まったか。</p> <p>⑥ タブレット、GoogleClassroomの活用が進められたか。</p> <p>⑦ 生徒の科目選択満足度は80%以上になったか。</p>	<p>① 学年外の教員も授業や補講を通じて行う方策を明記し実践したので全ての教員の自己評価は高まった。</p> <p>② 約5割の生徒が満足、やや満足と回答。講習参加者は延べ1511名。講座の精選による講座数減に比べ8%の参加者減に留まった。</p> <p>①②③ 進路決定率は9割以上。</p> <p>④ 進路分析会を定期的に開催し、情報共有と統一した指導ができた。</p> <p>⑤ 全ての教員が方策を明記し、取組の内容が明確となり自己評価は高まった。</p> <p>⑥ 9割以上の授業でタブレットを使用して進めている。</p> <p>⑦ 満足度は74.3%で、昨年度とほぼ同じであるが、新課程初の科目選択で7割以上は高い満足度であると言える。</p>	A	<p>・全ての教員の自己評価シートに、進路実現・授業改善・意欲向上に向けた方策が明記され、自己評価も高まった。次年度も継続して取り組むべき方策を明確にし、実践する。</p> <p>・タブレットをノート、問題演習、視聴覚教材、プレゼンテーションツールとして、また、体育での動作分析に使用するなど、効率的に授業が行われている。タブレットを使うことが目的になることなく、授業での有効な活用と授業改善に継続して取り組む。</p> <p>・生徒に、より高い目標を持たせるための授業と進路指導の質的向上が必要である。</p>
2	<p>○ 新型コロナウイルス感染症感染防止対策等により、学校説明会等の広報活動が制限を受けたが、ホームページや学校案内のリニューアル等工夫を進めてきた。引き続き、本校の特色ある教育活動や成果を様々な手段を使って工夫して発信していくことが課題である。</p> <p>○ 制約の多い中、縮小しながらも学校行事を工夫しながら実施している。今後も学校行事を充実させるための工夫が必要である。</p>	<p>○ 本校の特色や活動の成果などの積極的な情報の発信をする。</p> <p>○ 学校行事を充実させる。</p>	<p>① ホームページで動画配信を積極的に行い本校の特色や活動の様子をより理解しやすくする。</p> <p>② ホームページ、PTAや同窓会の広報誌等を通じて、学校の最新情報の発信を充実させる。</p> <p>③ 生徒一人一人が伊奈学生としての自覚と責任を持ち、年次やハウスを越えて自主的・主体的に行動でき、行事がより盛んになるよう指導する。</p>	<p>① ホームページでの動画配信を行うなど工夫できたか。また、更新回数が前年度より増加したか。</p> <p>② PTA、同窓会と連携して広報活動ができたか。</p> <p>③ 文化祭や体育祭などの行事を臨機応変に対応し、実施できたか。また、生徒会活動を通して活発な意見交換がなされ、経験や伝統の継承ができたか。</p> <p>③ 行事への満足度は高い水準を維持できたか。</p>	<p>① 校内向けの進路や科目選択等の説明動画は配信できたが、一般向けの動画は検討中。更新回数70回で、昨年度より25回増加。</p> <p>① 学校説明会6回計画通り実施。</p> <p>② PTA広報部に各行事の取材を依頼し、PTA広報誌に掲載した。</p> <p>③ 文化祭や体育祭は、感染対策を徹底し、保護者等の見学も入れながら実施できた。PTAの協力の下、感染拡大も引き起こすことなく、成功裏に終わった。</p>	A	<p>・HPの更新回数は高まったが、日々の取組の様子を可能な限り毎日アップするなど、更なる充実、工夫を図り、積極的に情報発信に取り組む。</p> <p>・生徒会活動や学校行事が前年度の踏襲にならないよう、良い部分は継続しながらも、工夫・改善を検討していく意識を高めて充実した学校行事を学校全体で取り組む。</p>
3	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、複数の部活動が関東大会や全国大会で優秀な成績を収めている。引き続き感染対策をとりながら部活動方針や県のガイドラインを踏まえ、学習活動との両立、各活動の充実を図ることが課題である。</p> <p>○ 生徒の規範意識は高いが、自転車事故等もあり、交通事故防止や交通ルールやマナー指導が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑えることが課題である。</p>	<p>○ 部活動等の効率的な活動と充実により、学習と部活動等の両立に主体的に取り組ませ、学習習慣を確立させる。</p> <p>○ 職員が一丸となり、様々な事故防止への取組を強化し、規範意識、保健衛生に対する意識を高める。</p>	<p>① 各部活動等の顧問は、それぞれの活動を通して育成すべき資質・能力を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 「Do活」を軸とした学習活動（週末の課題、読書活動など含む）に学校全体で取り組み、指導する。</p> <p>③ 全教員の共通理解のもと、ホームルームや集会等を通じて丁寧な指導を行う。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。</p> <p>② 生活実態調査で「平日・休日の平均勉強時間の増加」と「勉強・部活動の両立ができた」と回答した生徒が前年度より増加したか。</p> <p>③ 前年度より生徒の事故件数、苦情件数が減少したか。</p> <p>③ ICTを活用した健康管理は毎日実施できたか。また、実施率は9割以上を維持できたか。</p>	<p>① 部活動は、8割以上の加入率を維持し、活発に活動した。吹奏楽部の大会での全国金・銀賞受賞を筆頭に、複数の部活動で、全国・関東大会へ出場を果たすなど、素晴らしい成績を収めた。自己評価シートに明記された育成方針による各顧問の熱心な指導の成果である。</p> <p>② 学習と部活動の両立ができていない生徒があるとの声を受け止めている。「Do活」の在り方を見直し、自学自習の習慣化を目指す、学校全体で学習と部活動の両立できる体制を構築することが必要である。</p> <p>③ 学習と部活動の両立ができていない生徒は約3割。前年度とほぼ同数。</p> <p>③ 昨年度より交通事故件数4件増加。苦情件数も増加傾向にある。</p> <p>③ 健康チェックは毎朝報告するシステム体制が整備され、実施している。</p>	A B	<p>・学習と部活動の両立ができていない生徒があるとの声を受け止めている。「Do活」の在り方を見直し、自学自習の習慣化を目指す、学校全体で学習と部活動の両立できる体制を構築することが必要である。</p> <p>・全教職員の共通理解の下、組織的な対応により引き続き安心安全な学校づくりを目指す。また、増加傾向にある外部からの苦情や指摘について、学校運営改善と信頼回復の好機と捉え努めていく。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和5年2月1日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・生徒一人一人にタブレットがある環境は素晴らしい。生徒もそれを使いこなしており、先生方も研修に努めていることと思う。</p> <p>・タブレットの良い点はプリントがかさばらないところなど取り組みやすいが反対に、データが大きいと動作が重くなることがあり、また、意図しない使い方もできてしまうので、先生と生徒でしっかりコミュニケーションをとることで、使い方を意識していくことが必要である。</p> <p>・学系選択、進路選択などきめ細やかに対応されていること、自分の特性を学系で生かしていることが分かった。校舎の中に入って参観する機会はなかなかないので、生徒が落ち着いて学校生活を送っている様子が見られて良かった。</p> <p>・地元の中学生にとって憧れの高校である。「授業が選択できる」「個性が伸ばせる」ところが良いと中学生は言っているので、ぜひ、個別最適な学びの実践を追究して行ってほしい。</p> <p>・タブレットがどのように使われているのか、実際に授業を見られて良かった。コロナ禍で仕方がないところもあるが、学校が抱えている問題等も含めて保護者に理解してもらうことが互いの協力体制構築には大切である。</p> <p>・大きな学校で、新型コロナウイルス感染症への対応は大変だと思うが、そのような状況の中でも先生方の協力体制により様々な教育活動が進められていることが分かった。</p> <p>・交通ルールは守られているが、マナーは生徒自身で考える時間が必要である。小学校で作成されているヒヤリハット地図のような危険箇所を明らかにすると意識が変わるのではないかと。</p> <p>・今回初めてグループディスカッション形式の評価懇話会であったが、生徒の気持ちが分かったり提案があったりしてよかった。このような取組は大事だと思った。これを当たり前のこととして行ってほしい。</p>	